

I 港区立赤坂子ども中高生プラザ概要

1. 基本理念及び運営方針

(1) 基本理念

赤坂子ども中高生プラザ（以下、「プラザ」という。）は、児童を権利行使の主体として捉え、港区立子ども中高生プラザ条例（以下、「条例」という。）に基づき、下記の基本理念を掲げ、子どもの権利を擁護し、健やかな成長を願って事業の運営を行ってきました。

- ① のびのび楽しく過ごす心を持ち、ありのままの自分に力があることを自覚し、自主的に活動を進められるように支援します。
- ② じっくりと考える力が育つように働きかけ、仲間とともに協力し、自治を作っていく力を育てます。
- ③ 一人ひとりの違いを認め合いながら、人間として温かな心を育むよう支援します。
- ④ 生き生きと健康な身体を作ることを働きかけ、児童の体力増進のための活動を進めます。
- ⑤ 中高生が心地よく過ごせる居場所となるよう環境を整え、支援するとともに、自主的に文化、芸術、スポーツ活動の向上を図れるよう、活動を進めます。
- ⑥ 地域の乳幼児や小学生と子育て中の保護者が、主体的に、生き生きと安心して過ごせる場を作ります。
- ⑦ 学童クラブの子どもたちが生活の場として安心して過ごし、個々の力を伸ばせるよう働きかけます。
- ⑧ 地域との連携を深め、協力、交流を行うための組織を作り、活動を進めていきます。
- ⑨ 児童に関わる情報収集に努め、発信、提供の場になれるようにします。

(2) 全体の運営方針

- ① 来館者一人ひとりのベスト・インタレスト（最善の利益）を出発点とした運営を行います。
- ② 地域をステージとした多様な活動に参加できるよう、拠点施設としての運営を行います。
- ③ 児童が友情を育み、仲間と集える「居場所」を共に作っていく運営を行います。
- ④ 障害のあるなしに関わらず、だれもが自分らしい選択で活動できるノーマライゼーションの考えに基づく運営を行います。
- ⑤ すべての児童・保護者等が性別にとらわれず、自分らしく豊かに生きることのできるよう男女平等参画の視点から運営を行います。新
- ⑥ 子育て中の家庭を支援し、親も成長できるよう、共生の視点から運営を行います。
- ⑦ 高齢者施設との交流を深め、世代間交流を促進する運営を行います。
- ⑧ ボランティアの育成に努め、社会参加への機会となる運営を行います。
- ⑨ 利用者の個人情報保護の適正化に取り組むとともに、職員の倫理綱領に基づく行動規範を遵守し、サービスの質の充実を図ります。
- ⑩ 地域に信頼され、親しまれる施設、より一層賑わいのある施設を目指します。
- ⑪ 令和元年度は、中高生世代を重点対象とし、中高生世代の児童が自主的・主体的に意見を表明できるように支援し、活動を企画・運営します。新

(3) 具体的な方針

条例に基づき、児童が心身ともに健やかに成長し、豊かな情操を育むようにするため、大型児童センターとしての役割を果たしつつ、「地域とともに育つ」という視点から、開かれた施設づくりを進めます。

この観点により、乳幼児から18歳未満の児童の心のよりどころとなり、かつ“居場所”として、児童の体力増進、文化・芸術活動の拠点になるよう、企画運営を行いました。

- ① 地域とともに育ち、信頼される施設を目指し、開かれた施設づくりを推進します。
 - ・ 児童が安全に、安心して過ごせる施設運営を行います。
 - ・ 児童の遊びや体力増進、文化・芸術の拠点となるような企画と運営を目指します。
 - ・ 児童を優先しつつ、地域のニーズに柔軟に応えられるよう、開かれた施設運営を行います。
 - ・ 児童に関する関係機関、とりわけ近隣の機関等と連携し、有機的なネットワークを構築します。
 - ・ 学童クラブにおいては、児童の健全育成に十分配慮し、更に充実した運営を目指します。
 - ・ 港区の「子どもの未来応援施策」実現に向け、中高生の居場所機能を充実させるよう取り組みます。
- ② いろいろなニーズを持った児童が参加しやすいように、常に利用者の状況を把握し、自主的な活動を支援し、ともに行動しながら、交流する喜びや満足を感じられるような活動内容を提供します。
 - ・ 職員の専門性を高め、質の高いサービスを提供します。
 - ・ 中高生に対しては、地域等の協力も得ながら、本物の文化、芸術、スポーツなどの素晴らしさを伝えられるような活動を展開していきます。
 - ・ 児童が自主的に参加できる場所として、児童の欲求を敏感に捉えながら、自主的な活動を進められるよう、配慮をしていきます。
 - ・ 障害児の夏季休業日等の受け入れに、適切に対応し支援します。
- ③ 高齢者施設との交流を大切にします。
 - ・ 併設の高齢者施設を利用される方々と、日常的に自然な交流ができるよう工夫し、世代間交流ができるような活動を企画します。
 - ・ 高齢者施設との交流については、ボランティアや見学も行うとともに、併設の高齢者施設と連携し、児童がより高齢者福祉に興味、関心を持つことができるような機会を設けます。
- ④ 令和元年度は、中高生世代を対象に、「中高生の居場所づくり」を念頭に置いた活動の実現・強化を重点目標として掲げ、支援しました。新

2. 利用日時

(1) 赤坂子ども中高生プラザ

条例等に基づき、次のとおり行いました。

【開館時間】

午前9時30分から午後8時

(小学生の利用は、ひとりで帰れる時間を考慮し、「午後6時まで」を推奨)

※障害児夏季休業日等支援事業による受入れ拡大 午前8時30分から

【開館曜日】

月曜日から日曜日

(ただし、国民の祝日に関する法律に定める休日、年末年始の12月29日から31日及び1月2・3日は休館)

年末施設開放12月29、30日午前9時30分から午後8時

※ なお、令和2年3月2日以降は、「新型コロナウイルス感染症」拡大の影響により、港区の方針にしたがい、児童館部分の一般利用を中止したことから、年度末まで、プラザでは利用を受け入れませんでした。

(2) 学童クラブ

港区学童クラブ運営要綱に基づき、利用日及び時間について、次のとおり行いました。

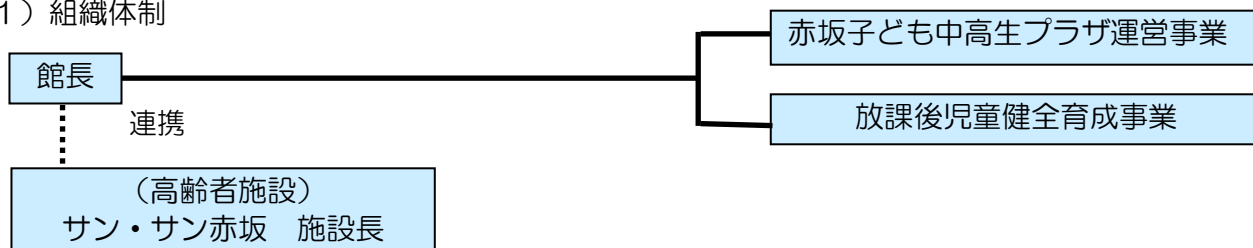
① 月曜日から金曜日 下校時から午後7時 土曜日 午前8時から午後5時

② 学校休業期間中 午前8時から午後7時(但し、土曜日は午後5時、日曜日は休室)

※ なお、令和2年3月2日以降は、「新型コロナウイルス感染症」拡大の影響により、区立・都立学校等が2日から臨時休業することとなったことに伴い、例年とは異なり、学童クラブ入会児童については、終業式等の日を除き、朝からの利用を受け入れました。

3. 運営管理

(1) 組織体制



(2) 職員体制

区分	館長	事務員	児童指導員			その他	合計
			プラザ	学童クラブ	子育て広場		
正規・常勤	1(1)		10(8)	5(4)	2(2)		18(15)
非正規		0(1)	1(1)	0(1)	1(0)	0(1)	2(4)
		2(0)	0(3)	4(1)	1(2)		7(6)
計	1(1)	2(1)	11(12)	9(6)	4(4)	0(1)	27(25)

(注) ()内の数値は、指定管理提案時の配置計画数。令和2年3月31日現在。

II 赤坂子ども中高生プラザ運営事業

1. 令和元年度 運営方針・指導の重点(学童クラブ共通)

以下の運営方針・指導の重点に基づき、事業を実施・運営しました。

(1) 年度運営方針

令和元年度は、「中高生世代」を重点対象とし、「中高生居場所づくり」を念頭においた活動の実現、環境づくり、仕組みづくりに重点をおいた運営を行う。新

(2) 指導の重点

- ① 児童から、赤坂子ども中高生プラザに「また遊びに来たい!」と思われるよう、職員との関係づくり、企画運営を行います。
- ② 赤坂子ども中高生プラザが、赤坂地区の拠点として、「なんで~もにあれば、安心して過ごすことができる、心のホッとステーション」となるよう指導・支援をしていきます。
- ③ 中高生の居場所となるような企画・行事の実施はもとより、「学習支援」「食事支援」と、現在実施している活動についても継続して行きます。新

(3) 主な取組 ※

- ① 中高生からの意見広聴の場を設け、継続して実施します。 改
- ・子どもたちの意見を企画、運営に反映するため、毎月「なんで～も委員会」を開き、自主的な活動を支援しました。
 - ・中高生プロジェクト（企画チーム活動）を起ち上げ、企画の検討、実施等をサポートしました。
- ② 中高生居場所づくり事業を継続して行います。
- ・異学校、異学年の児童となんで～もの職員や OB 大学生などと昼食を調理し共にしながら交流をする「TLP」(Teenager's Lunch Party) を概ね毎月 1 回実施しました。 新
- ③ 中高生より要望があった企画を実施します。
- ・平成 30 年度実施した中高生対象の意見広聴の場「なんで～も委員会」及び「バンド総会」において要望があった「カラオケ」を楽しむ企画である「プラカラ」を実施しました。 新
- 「※」は、活動計画内に重複記載。

(4) 総括

- ・ TLP は、ほぼ毎月実施し、一定数の参加者があったが、一桁台にとどまった。新規企画であるプラカラは、ほぼ毎月実施したところ、一定数の参加者があり、狙いは一定程度当たったものの、2 桁以上の参加者があったのは、僅かであった。
- ・ ボイスレッスンなど、新たな企画も実施を試みた。
- ・ 新たな中高生の利用者の獲得については、依然苦戦はしているものの、学校行事の制作場所としてプラザを利用した中学生が「TLP」にも参加してくれるようになるなど、職員の声かけが効果を表した事例も出てきた。
- ・ 中高生の居場所づくり事業については、受験準備を含め、忙しい子どもに足を向けさせることには強く困難を感じているが、今後は、特に PR 手法の開発に活路を求め、未だ来館したことのない児童に対しても、来館を働きかけていきたい。

2 児童館事業

(1) 小学生対象の事業

定期活動

【メディアルーム】

実施回数	活動	内容	参加人数
通年	ローマ字検定	ローマ字入力を習得し、検定を受ける	約 100 人
24 回	月間企画	制作活動、絵画コンテスト 季節に関する活動	152 人

【クラフトルーム】

実施回数	活動	内容	参加人数
15回	期間工作	おすすめの工作を月に1～2回、作り方の掲示や材料を用意し、提供	約300人

【アリーナ】

実施回数	活動	内容	参加人数
39回	月間企画	集団遊び、スポーツ企画（アリーナに集合、王様バドミントン等） リクエスト企画（雪玉合戦等） 表現活動（一輪車、ダンス等）	898人

特別活動

【メディアルーム】

実施回数	活動	内容	参加人数
通年（1回）	ローマ字検定王	PCでのローマ字入力を楽しく習得し、競う	感染症拡大防止のため、中止
年3回	リクエストシアター （アリーナシアターも含む）	子どもからのリクエストをもとに、映画を大画面で上映する	175人
1回	講師企画	講師による企画（インターネット講習会等）	25人
1回	月間企画	小学生なんで～も委員会発案による企画（TVゲーム大会）	23人
2回	新e-スポーツ大会	メディアルームの大画面テレビを使用し、ゲーム大会を行いながら交流を深める	34人

【クラフトルーム】

実施回数	活動	内容	参加人数
43回	月間企画	テーマ・材料を決めての工作 リクエスト企画（ビーズ・小物作り等）	533人
6回	陶芸教室	講師による陶芸活動	40人
1回	高学年企画	高学年向けの材料、道具を使ったアクセサリー作り、工作等	9人
10回	PlaZania お店屋さん商品作り	PlaZania に向けてお店屋さんの商品作り	91人
6回	おやつ研Q会	高学年を対象に、お菓子やアイスなどの違いについて考えながらおやつを食べる。	34人

【スタジオI】

実施回数	活動	内容	参加人数
年1回	伝統文化	講師を招いて伝統文化の体験（※）	感染症拡大防止のため、中止
年3回	音楽活動	職員による小学生の音楽活動（ハンドベルなど）や指導、館内発表会への出演 カラオケ等の遊びの提供	40人
年1回	ことさん	講師による箏・三味線の体験指導、館内発表会への出演	82人

※「歴史・文化にふれる活動」の一環

【アリーナ】

実施回数	活動	内容	参加人数
19回	ドッジボール	港区児童館ドッジボール選手権大会に向け低学年、高学年のチームを作り、大会に向け練習を行う。	492人
年2回	アリーナシアター	子どものリクエストにより、アリーナで、映画等を上映	89人
年1回	専門講師による講座企画	講師を招いて、専門的なスポーツ教室を行う。（ブラインドサッカー）	17人

【その他】

- ・新入生対象館内スタンプラリー開催、参加者35名
- ・赤坂・青山共育フェスタに「ムジカ ディ バンビーノ」「DANCEクラブ」参加

（2）中高生対象の事業

定期活動

【なんで〜も委員会】

実施回数	活動	内容	参加人数
第3日曜日	委員会（年間登録）	プラザ（館）の運営に関する話し合い、活動内容の検討など	57人
通年	プロジェクト（企画チーム活動）	企画検討・実施準備、活動実施・片づけ	57人

【中高生居場所づくり事業】

実施回数	活動	内容	参加人数
通年	まなび舎 in なんで〜も	ラウンジ内に専用の勉強コーナーを設置し、自主学習の場の確保 中高生の交流の場の確保	640人

第2・第4 火曜日	NAN-CAFE	異学校、異学年の児童となんで～もの職員やOB 大学生などが、菓子類や飲料を食べながら語り 合い交流する「しゃべり場」	188人
第3火曜日	NAN-COOK	異学校、異学年の児童となんで～もの職員やOB 大学生などが、軽食を調理し食しながら語り合 い交流する「しゃべり場」	75人
通年	NAN-SPO	異学校、異学年の児童となんで～もの職員やOB 大学生などとスポーツで交流する	83人
第4日曜日	新 TLP (ランチパーティー)	異学校、異学年の児童となんで～もの職員やO B大学生などと、昼食の調理を共にし、食べな がら、交流をする。	59人

特別活動

【中高生居場所づくり事業】

実施回数	活動	内容	参加人数
年1回	館内宿泊「まなび舎 in なんで～も」	・長期休業期間中の宿泊を伴った自主学習支援 企画 ・大学生ボランティア等による学習支援	6人
通年	まなびちゃん	・大学生ボランティア等による学習、スポーツ 交流、進路相談会	141人

【メディアルーム】

実施回数	活動	内容	参加人数
55回	月間企画	映画等の上映会、パソコンを使った製作活動	1163人

【クラフトルーム】

実施回数	活動	内容	参加人数
通年	月間企画	テーマ・材料を決めて行う工作など	40人

【スタジオI】

実施回数	活動	内容	参加人数
年1回	ダンスレッスン	講師によるダンス指導	21人
年2回	新 プラカラ (プラザ・カラオケ)	カラオケを用いて歌うことを楽しみながら、異 学年・異学校の中高生同士が親しく交流を深め る。	65人

【スタジオII】

実施回数	活動	内容	参加人数
通年 月1回	予約会議	スタジオ利用に関する次月の予約、連絡調整、 バンド交流	132人
年2回	バンド総会	バンド同士の交流、より良く利用するための会 議	35人

年2回	バンドレッスン	講師による演奏指導	5人
-----	---------	-----------	----

(3) 全年齢対象の事業

特別活動

【ラウンジ】

実施回数	活動	内容	参加人数
通年 月1回	お話し宝石箱	歌、紙芝居、読み聞かせ等 ボードゲーム大会、クリスマス会、新年会等の 季節のお楽しみ会	332人

【メディア】

実施回数	活動	内容	参加人数
27回	メディア シアター	映画等の上映会	929人
通年	ペーパークラフト	パソコンを使った工作 (季節に関連するもの、車や人形、バッグ、箱 等)	約100人

【クラフトルーム】

実施回数	活動	内容	参加人数
7回	ワークショップ	テーマ・材料を決めての工作等	122人
年4回	料理活動 クラ COOK	ランチ作り・おやつ作りなど ※乳幼児を除く。	70人

【アリーナ】

実施回数	活動	内容	参加人数
19回	新 The 卓球 サークル	<ul style="list-style-type: none"> 小学生以上の児童から保護者まで参加できる卓球サークル。 異年齢交流や保護者同士の交流まで、幅広い年齢が参加し、楽しめる活動。 講師の指導やランキング戦も実施。 ※乳幼児を除く。 	316人
30回	新 ボルダリング タイム	<ul style="list-style-type: none"> 年齢で時間帯を分けて、ボルダリングを安全に楽しむ。 	253人

3 子育て広場事業

(1) 「乳幼児と保護者」対象の事業

定期活動

実施回数	活動	内容	対象	参加人数
34回	はいはい・よちよちグループ	・手遊び、音楽遊び、工作、読み聞かせ、ふれあい遊び、運動遊び、食育など	H30.4.2 生まれ以降の乳幼児・保護者	407人
29回	ねんねグループ	・1年を通して参加できる登録者には、出欠ファイルを配布。		308人
39回	うさぎさんグループ	・手遊び、音楽遊び、工作、読み聞かせ、ふれあい遊び、運動遊び、食育など ・1年を通して参加できる登録者には、出欠ファイルを配布。	H29.4.2～ H30.4.1 生まれの乳幼児・保護者	789人
43回	こぐまさんグループ	・手遊び、音楽遊び、工作、読み聞かせ、ふれあい遊び、運動遊び、食育など ・登録制で25名定員。	H28.4.2～ H29.4.1 生まれの乳幼児・保護者	1413人
38回	わいわいクラブ	アスレチック、リズム体操、かけっこ、集団遊び、ふれあい遊びなど	幼児(2歳～3歳程度)・保護者	1205人
33回	FC NANDEMO	幼稚園児対象としたサッカーを中心とした運動遊び	幼稚園児・保護者	541人
17回	なんで～もであそぼ 1, 2, 3	楽器遊び、歌遊び、リトミックなど音楽を主体とした活動	乳幼児・保護者	246人
11回	アトリエ なんで～も	幼稚園児対象で、講師を招いた造形・絵画活動	幼稚園児・保護者	142人
11回	ファミリータイム	季節にちなんだ料理活動等(保育園児・幼稚園児も参加できるよう週末に行う)	乳幼児とその家族	118人
19回	たんぼぼクラブ	・民生・児童委員による子育て支援活動(手遊びタイム・ティータイムも行う) ・奇数月第4火曜日は、保健師、栄養士による育児相談会も行う	乳幼児・保護者	281人
201回	お昼の体操	幼児向けのダンスを中心とした活動	乳幼児・保護者	2269人
5回	プラタイム ^新	電池を入れたプラレールタイム	乳幼児・保護者	40人
1回	流しラーメン	ふれあい広場で流しラーメン	乳幼児・保護者	16人
21回	各グループ活動内「水遊び」・キラキラ☆プール	「ふれあい広場」での水遊び	乳幼児・保護者	314人

特別活動

実施回数	活動	内容	対象	参加人数
2回	みなと保健所との連携事業	歯科衛生士、環境衛生士の講話等	乳幼児・保護者	33人

8回	講師による企画	マタニティヨガ、骨盤リセットヨガ、リトミック	乳幼児・保護者	128人
4回	赤坂図書館との連携事業	各グループ活動内にて「おはなし会」	乳幼児・保護者	83人

(2) 保護者対象の事業

定期活動

実施回数	活動	内容	対象	参加人数
11回	な～んでも「お聞きします」(日本ガーディアン・エンジェルスとの連携事業)	日本ガーディアン・エンジェルスから派遣されたボランティア相談員「スマイルさん」(心理士等)による相談活動	乳幼児の保護者	258人
20回	子育て支援保護者対象企画	製作活動(カレンダー、移動ポケット、匂い袋、くるみボダン)、スポーツ、調理等、骨盤リセットヨガ、ヨガ、陶芸、ハンドベル	なんで～もを利用している乳幼児の保護者	138人
2回	キッズリサイクル	寄付を募り、リサイクル品を無料で提供	乳幼児の保護者	96人
1回	ハートでつなぐリサイクル	寄付を募り、リサイクル品を無料で提供	なんで～もを利用している乳幼児の保護者	55人
5回	心すっきりここスキ!!	職員による育児相談会	乳幼児の保護者	41人

特別活動

実施回数	活動	内容	対象	参加人数
年1回	子育て講話	講演会、グループ討論会	乳幼児の保護者	11人
年1回	ノーバディーズ・パーフェクト・プログラム	子育て中の親のグループワーク(親支援プログラム)	乳幼児の保護者(母親)	12人
年1回	赤坂消防署との連携事業	乳児の救命救急講習会	乳児の保護者	8人

(3) 父親対象事業・祖父母対象事業

特別活動

実施予定回数	活動	内容	対象	参加人数
1回	イクメン・イクジイ・イクバア 応援企画	陶芸教室	なんで～もを利用している乳幼児の父親・祖父母	10人
2回	プレママ・プレパパ 応援企画	マタニティ&保護者対象ヨガ	妊婦及びその夫	8人 (うち妊婦1人)

(4) 乳児対象事業

定期活動

実施予定回数	活動	内容	対象	参加人数
13回	集まれ赤ちゃん! 乳児対象企画 ^新	はいはいレース、ベビーマッサージ、はぴママ親子ヨガ、ベビーサイン、手形足形プラ板	乳児・保護者	147人

4 年間行事報告

(1) 事業計画に基づく行事

月	乳幼児	小学生	中高生	内容	参加人数
4		ウェルカム・なんで～も		小・中・高の新一年生に対して、祝福・歓迎する行事クラブ活動の紹介	142人
5		こどもの日行事 わくわく☆ランド		子どもの成長と健康を願うための行事	207人
6	ロハスキッズ			乳幼児の年齢別グループ活動の交流行事を行う	56人
		高学年 キャンプ		自然環境の中で、宿泊を通じて、体験と交流を深める行事	24人
		親子交流行事		親子でバーベキューを楽しみ、保護者同士の交流を図る行事	33人
7		納涼祭 (高齢者施設と共催)		高齢者施設と共催し、地域の方々と楽しむ夏祭	1665人
8		低学年 バスハイク		バスを使用して外出を楽しむ行事	83人
			中高生館内宿泊 よるで～も	館内での宿泊を通し、中高生の交流を深める行事	6人

		プラネタリウム	館内で移動式プラネタリウムを楽しむ行事	157人
9		赤坂秋祭り 2019	地域商店街行事において当館活動の発表を行う	173人
	キッズシアター		乳幼児の年齢別グループ活動の交流行事を行う	50人
10		あきる野市里山体験	あきる野市の自然に触れ環境学習を行う行事	38人
	乳幼児バスハイク		乳幼児とその保護者を対象に、バスを使用して外出を楽しむ行事	56人
		パパと行こうワンダーフォーゲル	林試の森へ遠足に出かけ、植物や昆虫観察や外遊びを行う。	9人
		ドッジボール大会	港区の児童館が集まって、ドッジボール大会を行う行事	19人
		みなと区民まつり	芝公園において、工作ブースへの出店協力、及び当館での児童の活動発表を行う行事	雨天の為中止
11		文化祭典	文化・芸術活動の展示と発表を楽しむ行事	566人
		共育フェスティバル	赤坂・青山地区協働行事に参加し、工作ブースの出店、当館活動の発表を行う	約90人 +18人 (出演児童)
12	たんぼぼクラブクリスマス会		民生・児童委員「たんぼぼクラブ」との共催で乳幼児対象のクリスマス会を楽しむ行事	89人
		児童館交流会	港区の児童館が集まって、活動の成果を発表する行事	21人
1		中高生音楽表現発表会	中高生による音楽表現活動（バンド・ダンス）の発表を行う行事	96人
2		節分・もちつき大会 (高齢者施設と共催)	高齢者施設と共催で、季節の伝統行事及びもちつきを楽しむ行事	159人
		中高生交流行事	文化やスポーツに親しみ、中高生の交流を深める行事	中止
3	キッズランド		乳幼児の年齢別グループ活動の交流行事を行う	中止
		アリーナ★ウォーズ	アリーナにおいて「お化け屋敷」や「アスレチック」などを楽しむ行事	中止

	クラブカーニバル&PlaZania ㊦	各クラブの活動のまとめ及び活動の成果を発表する場であるとともに、子どもたちのお店屋さん体験、高齢者施設での介護士体験を行ったり、高齢者と子どもたちとで模擬店を開いたりするなど、児童同士や高齢者との交流を深める行事	中止
--	---------------------	--	----

(2) 連携行事

月	乳幼児	小学生	中高生	保護者	連携機関	参加人数
5月		交通安全教室			赤坂警察署 (スクールサポーター)	26人
6月			プラザカップ (フットサル)		赤坂、港南、高輪、神明、麻布、芝浦の6プラザ	35人
8月			港区5館 合同LIVE Minato Music Mates		赤坂、港南、高輪、神明、麻布、の5プラザ	25人
9月		赤坂秋祭り 2019			赤坂通り商店会等	173人
10月		港区児童館ドッジボール選手権大会				19人
11月		火災予防講話			赤坂消防署新町出張所	12人
11月	赤坂・青山共育フェスティバル(檜町公園)				赤坂・青山共育情報局 赤坂地区総合支所協働推進課	約90人 +18人 (出演児童)
		プラザカップ (フットサル)			赤坂、港南、高輪、神明、麻布、芝浦の6プラザ	126人
12月		港区児童館交流会			港区内の12児童館、プラザ	21人
			中高生バスケ交流大会		赤坂、港南、高輪、神明、麻布、芝浦の6プラザ	22人
1月		プラザ交流大会 (バスケットボール)			赤坂、港南、高輪、神明、麻布、芝浦の6プラザ	0人
2月		プラザ交流大会(卓球)			赤坂、麻布2プラザ	15人

※ 乳幼児の連携事業については、子育て広場事業内にて記載。

5 クラブ・サークル活動

<クラブ>

実施回数	活動	内容	参加人数	対象
32回	レッツ!バトン	バトントワリング・チアダンス(講師指導)	1049人	小学生~中高生
12回	クッキング・プチクッキング	料理活動・お菓子作り	188人	小学生~中高生
30回	ムジカ・ディ・バンピーノ	合唱・合奏	355人	小学生~中高生
31回	DANCE	ダンス(講師指導)	925人	小学生~中高生
21回	NDM5	フットサル(講師指導)	572人	小学生
28回	バスケットボールクラブ	バスケットボール(講師指導)	604人	小学生

※レッツ!バトンクラブは「赤坂秋まつり(旧、SWING赤坂)」、「区民まつり」、「なんで~も文化祭」「クラブカーニバル」に出演

※ムジカ・ディ・バンピーノクラブは、「地域懇談会」、「赤坂秋まつり(旧、SWING赤坂)」、「共育フェスティバル」「なんで~も文化祭」に出演

※DANCEクラブは、「納涼祭」、「赤坂秋まつり」、「共育フェスティバル」、「なんで~も文化祭」、「地域懇談会」に出演

※バスケットボールクラブは「港区プラザ児童館交流会」に参加予定 → 感染症拡大防止のため中止

※NDM5は、親子交流会を年2回開催

<保護者自主サークル>

実施回数	活動	内容	参加人数	対象
通年(22回)	美容体操サークル	講師を招いての「ピラバレッチ体操」	317人	なんで~もを利用している児童の保護者
通年(9回)	Kinana(フラダンスサークル)	講師を招いてのフラダンス練習	56人	なんで~もを利用している児童の保護者
11月~(9回)	ビリー部	健康の向上を目的としたダンス・運動	118人	なんで~もを利用している児童の保護者

6 相談活動

主にキッズや学童クラブの保護者、クラブに所属している児童の保護者などから相談を多く受けた。また、中高生は信頼関係を築いた職員に相談するため、出勤日を確認して来館する児童も見られた。その他、電話での育児相談も数件あり、中には職員を指名して継続的に相談するケースもあった。

相談活動の一環として、職員による保護者相談会「ここスキ!!」は、ざっくばらんに話ができる

と好評であった。職員は保護者の気持ちに寄り添い、共感しながら傾聴することを心がけた。

種別	主な相談内容	対象
電話・来館	小学生 ・友人関係について 中高生 ・思春期について ・進路について 保護者 ・トイレトレーニングやおむつ離れについて ・お箸を持たせるタイミングについて ・イヤイヤ期について ・子どものしつけについて ・自分の時間がなくて、辛い ・右利きか左利きか など	小学生・中高生 ・保護者

7 子ども・保護者委員会

昨年度行って好評だった「小学生なんで～も委員会」を、さらに展開し4回行った。小学生が意見を言いやすいように、アリーナ、クラフト、メディアでの活動等と、各回テーマを絞り、企画についての意見や、日頃思っている要望などを会議形式で話し合い、その後お菓子を食べながらの雑談タイムでも、児童の気持ちを汲み取り、企画やルールに反映させた。

「アリーナ」をテーマとする会議では、「アスレチックがしたい」「リアル人生ゲームがやりたい」との意見が挙がったので3月に企画を実施予定だったが、コロナウィルス感染拡大防止のため中止となってしまった。また、「クラフトルーム」をテーマとする会議では、「流シタピオカがやりたい」との意見が出たので企画を実施したところ、大好評だった。

「乳幼児の保護者」に焦点を絞って行った会では、「30分程の短めの職員の演奏会をしてほしい。」という要望があり、年末にコンサートを行った。他には「みんなで公園に行きたい」「子どもが遊びながら学ぶことができるようなプログラムに参加したい」といったような施設への要望や、また「アットホームな雰囲気にとっても感謝している」「自分の居場所があると感ずることができる」という感謝の声が多く出た。

実施月	活動	内容	参加人数	対象
5月 10月 11月	本音で語ろう会 「ママのティーパーティー」	楽しかったことや、やってほしいこと、館への要望などを自由に話し合う。	138人	乳幼児保護者
5月 6月 8月 10月 12月	小学生 なんで～も委員会	やってみたい企画、遊びや館内ルールなどについて意見を話し合い、自分たちで館の企画や遊びを主導する。	57人	小学生

8 国際交流活動

今年度は「イタリア」について学んだ。

特別活動

実施月	活動	内容	参加人数	対象
7月	ゲーム店出店	納涼祭に出店。ダンボールで作ったピザを、的に投げ込むゲーム店。	572人	全児童・保護者・地域住民・関係者など
11月	イタリア料理の店	文化祭に出店。お店スタッフを募集して、パンネを調理・販売	208人	全児童・保護者・地域住民・関係者など
2月	イタリア料理体験	お菓子作り。ティラミスを作る	10人	小学生～中高生

9 高齢者施設（サン・サン赤坂）との交流活動

特別活動

月	活動	内容	参加人数	対象
5月	サン・サン赤坂ツアー	「サン・サン赤坂」利用者との交流及び高齢施設での活動についての紹介	131人	乳幼児～保護者 高齢者
6月	しゃぼん玉あそび	ふれあい広場において「シャボン玉遊び」で交流	53人	乳幼児～保護者 高齢者
7月	七夕会	・デイサービスを訪問し、高齢者と一緒に七夕飾り作りを行う。 ・竹笹への飾り付けを高齢者と一緒に行う	55人	乳幼児～保護者 高齢者
	七夕飾りつけ	七夕飾り付けを高齢者と一緒に行う。	9人	乳幼児～保護者 高齢者
8月	スイカわり	アリーナにてスイカ割りイベントを高齢者と一緒に楽しむ	133人	乳幼児～保護者 高齢者
	盆踊り交流	デイサービス行事への参加	50人	乳幼児～保護者 高齢者
	プラネタリウム交流	アリーナにおいて行うプラネタリウムを一緒に楽しむ	157人	乳幼児～保護者 高齢者・地域住民
	打ち水交流	毎週月曜日の午後、乳幼児用プールで使用した水を再利用して打ち水を行う。	36人	乳幼児～保護者 高齢者
9月	敬老会	サン・サン赤坂の各フロアを訪問	115人	乳幼児～保護者 高齢者
10月	ハロウィン交流	ハロウィンの仮装をして、サン・サン赤坂各フロアを訪問	191人	乳幼児～保護者 高齢者
11月	文化祭交流	・乳幼児グループ、小学生音楽クラブでサン・サン赤坂の各フロアを訪問 ・「赤坂いきいきプラザ」利用者の作品を展示	94人	乳幼児～保護者 高齢者・地域住民

	おやつ作り交流	サン・サン赤坂のテイルームにおいて、おやつを食べたりゲームをしたりして楽しむ	87人	乳幼児～保護者 高齢者
12月	クリスマスツアー	サン・サン赤坂の各フロアを訪問し、児童の音楽活動の発表を行う	71人	乳幼児～保護者 高齢者
1月	新年ごあいさつツアー	サン・サン赤坂の各フロアを訪問し、新年のあいさつ交流を行う	67人	乳幼児～保護者 高齢者
2月	もちつき	アリーナにて、もちつき行事を高齢者と一緒に行う。	159人	乳幼児～保護者 高齢者・地域住民
3月	春の交流会	アリーナにて、児童の活動の発表及びデイサービス利用者による合唱の発表	コロナウィルスにより中止。	乳幼児～保護者 高齢者

10 地域交流活動、歴史・文化にふれる活動

【日常活動】

児童の健全な育成を図るため、小学校、中学校、保育園、幼稚園、民生児童委員、青少年委員、その他福祉施設などの地域施設や、関係者との連携に努めた。

具体的には地域懇談会の開催や、行事等での相互協力を通してプラザの専門性の地域への還元、児童の状況などの情報交換を実施した。

これらの活動を通して地域に開かれた施設運営を行うとともに、地域との協力、交流が進むよう、日常的に地域との連携を深める活動を行った。

定期活動

実施予定回数	活動	内容	参加人数	対象
6月	咸臨丸(かんりんまる)探検隊	アークヒルズを訪問し、地域の歴史や自然について学ぶ。	15人	小学生
10月		地域の交通安全について調べ、防災マップを作り、「ぼうさい探検隊マップコンクール」に応募する。	10人	小学生
1月		株式会社スパイスを訪問し、最新デジタルコンテンツについて学ぶ。	9人	小学生 中高生
3月		紅ミュージアムにて、紅染め等伝統技術を学ぶ。	コロナウィルスにより中止。	小学生
3月		近隣の公園へおでかけ。	コロナウィルスにより中止。	乳幼児とその保護者 (祖父母も含む)

特別活動

実施月	活動	内容	参加人数	対象
6月	赤坂小学校 PTA主催遠足	赤坂小学校PTA主催による遠足への引率の協力	職員 2人	赤坂小学校児童 保護者
9月	赤坂秋まつり (旧SWING 赤坂 2019)	小学生によるバトン・ダンスの発表、 中高生によるバンドの発表、保護者サークルによるフラダンスの発表	173人	クラブ活動 参加児童
10月	みなと区民まつり	小学生によるバトンの発表 (台風の影響により2日目全面中止・代わりに「みなとラグビーまつり 2019」にバトンクラブがステージ出演)	両日共に 雨天の為 中止	クラブ活動 参加児童と その保護者
	地域合同防災訓練	赤坂消防署新町出張所の協力のもと、サン・サン赤坂、地域住民との合同による利用者参加型訓練	50人程度	全児童・保護者・地域
	いきいきプラザ 展覧会	赤坂いきいきプラザ主催利用者展覧会への出品	50人程度	乳幼児～保護者 地域住民
6月・11月	地域懇談会	地域の町会等代表者、施設、児童福祉関係者との情報交換	52人	関係者

11 ボランティア活動

ボランティアの受入れについては、以下のような事業を実施した。

＜受入れ事業＞：地域から自発的な申し出があった場合、内容、希望等を確認し、港区児童館等運営マニュアルに沿って、よく検討した上で企画、実施した。

＜自主企画事業＞：当館の企画実施上、必要となる講師またはアシスタントに関して、本人の承諾を得た上でボランティアとして協力していただいた。

＜子どもによる自主的な活動＞：当館の子どもたちによる地域貢献ボランティア活動を実施した。

【企画活動】

＜受け入れ事業＞

実施月	活動	内容	受入人数
通年(4回)	講師による企画	HONDA『ASHIMO 工作』 LAVA『はぴママ親子ヨガ』	12人
1回	演奏会	オマチマン&ツマチマンコンサート	2人

＜自主企画事業＞

実施月	活動	内容	受入数
通年(19回)	講師による企画	な～んでもお聞きします、子育て講話、インターネット講習、琴・三味線等、フリスビーづくり	46人

7月・11月 (2回)	行事や企画の手伝い	納涼祭、文化祭	35人
通年(55回)	日常活動の手伝い	見守り、工作準備、企画・行事の手伝い	3人
8月(1回)	中高生居場所事業等	館内宿泊行事「よるで〜も」	2人

<子どもによる自主的な活動>

実施月	活動	内容	参加人数
7月・12月 (計3回)	子どもによるボランティア活動	地域の独居高齢者へ送る暑中見舞・年賀状づくり(みなとボランティアセンター「かんがり」への協力)、地域清掃	36人

12 食育活動

【企画活動】

実施月	活動	内容	参加人数	対象
5月 2月	自由調理	プリンアラモード、 チョコフォンデュ	15人 10人	小学生～中高生
10月 11月	陶芸と調理	カレー皿作り、カレ ー	32人	小学生～中高生
10月	講師企画	ハロウィン	10人	小学生～中高生
12月	保護者料理企画	お手軽クリスマス 料理	7人	保護者
9月	乳幼児の自由調理	茶巾蒸し	① 32人 ② 20人	①うさぎさんグループ ②こぐまさんグループ 親子
2月	乳幼児の自由調理	お麩と牛乳のわらびも ち風	① 17人 ② 34人 ③ 15人	①りすさんグループ ②うさぎさんグループ ③こぐまさんグループ 親子

※ このほか、国際交流活動で「文化祭」出店、イタリアの料理作り開催

13, その他の活動

(1) 第三者評価

第三者評価については、平成28年度以降、指定管理期間のうち、中間年(3年度目)に1回受審することとなったことから、3年度目となった平成30年度に受審した。

評価機関による評価内容は、概ね高評価で、特段の指摘事項はなかった。

利用者やその保護者からのご意見の中には、思い当たる、もっともなご指摘もあり、これらに

対しては謙虚に受け止め、順次改善を図ってきた。

(2) 意見箱

プラザではキッズルーム、ラウンジに意見箱を設置し、広く利用者からの自由な意見を募っている。

児童からは、マンガの購入の要望や、企画の際にアリーナなどの部屋が締め切り（閉室）になっていることに対する不満などが寄せられた。

保護者からの意見には、「本棚に埃がたまっている。」「おもちゃに電池を入れて欲しい。」「加湿器を置いて欲しい。」といった環境整備面の要望や、「一見さんや外国の方が片づけをしない。」といった他の利用者に向けた意見があった。

おもちゃに電池を入れることについては、人気の「プラ（プラスチック製）レール」（を使用した電車遊び）に電池を入れて動かす「プラ・タイム」という企画を始めた。加湿器は、直ぐに導入した。「片付け」については、お願いの掲示を分かりやすくし、声かけをするよう努めた。

(3) 苦情対応

プラザ内で受けた利用者からの苦情の申し出については、平成30年度はなかった。

なお、苦情があった場合は、真摯に受け止め、改善すべきは、改善策を講じていく。

(4) 広報活動

①「なんで～もステーション」

毎月発行しているプラザの情報誌で、その月の行事や企画を掲載している。プラザのフロントで配布したほか、学校、保育園、幼稚園、地域の町会長・自治会長や民生・児童委員の方等への配布も行った。（2700部、館内配布は約200部）

英語版（表紙、乳幼児、小学生、保護者版）も毎月作成し、フロントで配布した。

②ホームページ

独自のホームページにより、随時、広報活動を行った。ホームページには、施設の概要や「なんで～もステーション」、台風時の対応等の最新情報・緊急連絡事項、サークルや「なんで～も委員会」の活動報告などを載せており、幅広い対象にプラザを紹介し、PRした。

また、利用者の要望により「FACE BOOK」のページを開設しており、当館のステーション等の広報や年間行事の案内広報も継続した。

③『元気です』

社会福祉法人東京聖労院の広報誌。年3回の発行で、赤坂子ども中高生プラザ等で行われた行事の報告、行事の予定を掲載した。

(5) おもちゃの病院

毎月1回、専門のドクター（おもちゃ修理の先生）が港区内を巡回して来館し、壊れたり、動かなくなったりした利用者のおもちゃを修理し、再利用を図った。

実施月	活動	内容	利用人数
通年 (10回)	おもちゃの 修理、再生	修理の技術を持った先生たちが、破損したり、動かなくなったおもちゃを診断し、治療し、機能を再生する。	46人

(6) アンケート

企画によっては、利用者アンケートを取り、事業に取り入れるようにした。

企画名	アンケート内容	回答（実施）例
乳幼児 バスハイク	バスハイクの行き先	子どもの国、鉄道博物館、アンパンマンミュージアム、動物園、水族館 他
アリーナ シアター	上映してほしい映画	ドラゴンボール、シュガーラッシュ、グリーンチ、ボスベイビー 他
ラウンジ	新規購入本・マンガ おもちゃ	犯人は踊る、カタカナシー メジャー、僕たちのヒーローアカデミア 他

(7) 学校等との連携

- ① 地域の公立小中学校、保育園とは、学童クラブ入会児童に関して、あるいは必要に応じて、先生方と日常的に情報交換を行い、連携を図った。
- ② 赤坂小学校との連携
 - ア 赤小 PTA 自然体験部が実施する野外活動の支援要員として、職員 2 名を派遣
 - イ 新入生オリエンテーションに、なんで〜もを紹介するため職員を派遣
- ③ 館長や職員が、学校の体育祭、文化祭等の行事や公開授業等に訪問し、学校での子どもの様子を参観し、日頃のコミュニケーションや児童の理解に役立てている。
- ④ 「サン・サンなんで〜も地域懇談会」に、地域の町会・自治会長、行政機関、青少年健全育成団体の関係者のほか、幼稚園、小・中学校、保育園等の教育機関等の長を招き、ご意見を聴取し、児童館での活動（ムジカディバンピーノクラブ【合唱】・ダンスクラブ演技披露を含む）も紹介している。
- ⑤ 「放課 GO→クラブあかさか」とは、学童クラブ児童との合同行事を行い、児童同士の交流を行った。
- ⑥ 「あかさかいきいきプラザ」とは、いきいきプラザ「ほのぼの作品展」に、当館利用児童および保護者の作品を展示した。また、当館の「文化祭」においては、いきいきプラザ利用者の作品を展示するなどの連携交流を行っている。
- ⑦ 地域の公立保育園、私立保育園等とは、当館の乳幼児行事（キッズシアター、キッズランド等）に園児を招待し、当館利用乳幼児との交流を行った。

Ⅲ 赤坂子ども中高生プラザ学童クラブ（放課後児童健全育成事業）

1. 学童クラブ事業

(1) 運営方針

赤坂子ども中高生プラザの事業の一つとして、学童クラブ事業（放課後児童健全育成事業）を行っている。安全・安心な生活の場であるとともに、健全育成の場として、プラザ内に専用の部屋と担当の職員を配置し、運営を行った。

(2) 子どもとの関わり

子どもたちが、安心してのびのびと生活し、活動ができるように配慮した。健やかに育つ環境

をつくるため、くつろげるスペースを設置したりし、宿題など学習への声かけをするなど、子どもたちが生活のリズムを作り、自立心が育つよう、支援に努めた。学童担当職員が児童との結びつきや信頼関係を深めるように交流を図った。

子ども同士の関係についても、お互いが楽しく、気持ちよく過ごせるよう、児童同士のトラブルについても細かく対応するよう努めた。

特別な支援が必要な子ども（被虐待児童を含む。）についても、集団の中で安心して過ごせるよう、必要に応じて（マン・ツー・マンで）サポートするなど、配慮した。

（3）家庭との連絡と相談活動

毎日の連絡帳でのやりとりや、年3回の保護者会（3月の3回目は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、実施できず。）、個人面談等を通して、日々の子どもの様子をご家庭に伝え、よりよい運営を行うために、保護者と情報交換した。その他、保護者からの相談に対して、真摯に問題解決に取り組み、配慮が必要な家庭についても、保護者と連携して柔軟かつ丁寧に対応した。

また、今年度の、秋の親子ふれあいイベントでは、昨年度同様夕食は各自が持ち寄るなどとし、保護者への負担が少なく、参加しやすい形にして行った。宿泊できる保護者の人数を配慮し、アリーナでドッチボールとクイズ大会を行い、その後花火鑑賞とDVD鑑賞をし、その後保護者との懇談会を行いながら、保護者同士の交流にしっかり時間をかけたイベントとなった。

その他の親子行事では、7月のプラザ行事の納涼祭において、学童クラブから「水玉ジュースやさん」を出店し、多くの保護者が参加、協力しあって、楽しい時間を過ごすことができた。

2. 日常活動の報告

概ね下記日課表に従った規則的正しい学童クラブ運営を行った。

（1）日課表

【学校がある日の例】

13:30～	来室 勉強タイム あそび
15:00	おやつ開始
16:30	おやつ終了
17:00	帰宅開始 （「送り」2回）
19:00	退室

【学校休業日などの例】

8:00～	来室 勉強タイム あそび
12:00	昼食の準備、 お弁当 片付け・休憩
13:00	あそび
15:00	おやつ開始
16:30	おやつ終了
17:00	帰宅開始 （「送り」2回）
19:00	退室

（2）おやつの提供

保護者から毎月預かるおやつ代を使用し、毎日午後3時から4時30分の間におやつを提供した。栄養面・安全面に配慮し、子どもたちが適切なエネルギー補給ができるよう工夫している。

アレルギーのある子どもに対しては、保護者に状況を確認した上で、別のメニューを用意するなど、個別の対応をとった。

また、毎週水曜日に、プラザ併設の高齢者施設の厨房で、手作りのおやつ（おにぎり・からあげ・

やしそばなど)を調理してもらい、子どもたちに提供した。メニューは、高齢者施設の栄養士や厨房の担当職員と話し合いながら毎月献立を決め、栄養面や子どもの嗜好を考慮して調理し提供した。これらのメニューは、保護者向けの学童クラブのお便り(「スター通信」)に毎月掲載し、お知らせした。

さらに、月1回のお誕生会の日には、厨房で調理したパースデーケーキを提供し、子どもたちのリクエストに応えたアニメのキャラクター等をデコレートしてもらうなど、子どもに喜ばれるよう工夫した。

(3) 安全の確保

保護者の協力を得ながら、出欠の把握を徹底するとともに、子どもたちに対しても安全確保の意識が高まるよう、日常的に指導をした。

5月上旬までは、学童クラブ担当職員が新一年生を対象に赤坂小学校への「迎え」を実施したほか、自宅付近まで(一ツ木公園方面・カンボジア大使館方面)延長して「送り」を実施し、これらを通じて、集団下校についての注意点等を指導した。

また、学童クラブに在籍する児童の居住地域が広範囲に及ぶため、児童の帰宅時の安全を図れるよう、年間を通じて、「5時帰り」、「5時45分帰り」の2つのグループに分け、職員が赤坂小学校まで、見守りながら送った。さらに、冬期(10月中旬~2月中旬)については、日暮れが早いことから、赤坂小学校の先(乃木坂駅付近・カンボジア大使館付近)まで、距離を延長して「送り」を行った。

(4) 家庭や学校等との連携

お便りの交換や、年度末に入会予定児童の情報共有を行い、様々な話し合いの場を通して学校や「放課GO→クラブあかさか」との協力関係を築いた。学童クラブの児童が個々に抱えている問題に関しては、お互いに情報交換し、多角的な視点で児童を捉えながら、速やかに解決を図っていけるように努めた。

また、災害や不審者との遭遇などの緊急事態が起きたときの下校時には、学校と密接に連携し、安全に対処できるよう臨機に体制を整えた。

(5) 子どもの様子

登録児童は令和元年度末時点で95名、日常的には平均60名前後の来室があった。学童クラブルームは、勉強をしたり、おやつを食べたりするほか、生活の拠点となる場所として、学年を超えた児童の集団で、多くの遊びを楽しんでいた。

昨年度に引き続き、第1学童クラブルームを低学年、第2学童クラブルームを高学年が使用することとした。高学年の居場所づくりへの配慮から、第2学童クラブルームは低学年の入室は不可としたが、第1学童クラブルームやプラザ内では、今までどおり学年を超えて交流する姿がみられた。第2学童クラブルームでは、自分や友人の部屋のようにくつろぐ姿がみられた。第1学童・第2学童クラブルームとも、室内には畳スペースなどをつくり、ゆっくりとくつろげるように配慮した。

低学年では、グループ活動として縦割り班を作り、各児童の座席を縦割り班になるよう指定し、自然な異学年交流を促した。高学年も手作りランチパーティーや外出の際には、少人数ずつ各班に分かれて入ってもらい、高学年として低学年をサポートする役割を果たしてもらった。

毎月のお誕生会のゲームでは、縦割り班を積極的に活用し、多人数の中で、年上・年下の子ども同士の交流が増え、学年を超えた縦のつながりが深まった。当館の学童クラブは、児童施設(プラザ)が併設されているので、クラブルーム内だけではなく、プラザ全体が遊び場となり、工作やスポーツ、パソコンなどの活動も各々自由に行っていた。

今年度も、学校からの下校後、来室にまだ不慣れな1年生の来室経路に立って見守った。その際、来室途中に度々ふざけてしまったり、走って帰るようなことがないか、お友達同士でトラブルや事故、不審者等のトラブルがないよう指導し、対応した。

3. 学童クラブ年間行事・活動報告

月	行 事	内 容	人数
---	-----	-----	----

	「なんで～もツアー」	新1年生が各部屋を回り、職員から使い方・ルールなどの説明を受けた。	28人(1年生)
	「みんなであそぼう」	友だち作りのきっかけになる集団ゲームを行ったり、テーブルごとにおやつをシェアしながら食べた。	53人
	誕生会	「インタビュー」を行った。	83人
5	誕生会	「お誕生日の子全員にインタビュー」を行った。	76人
6	個人面談(1年生)	保護者と、児童についての情報を共有した。	34人 (保護者)
	誕生会	「インタビュー」を行った。	76人
7	誕生会	「ビンゴゲーム」を行った。	74人
	第1回保護者会	自己紹介を兼ねて、懇談を行った。会計監査委員の実行委員を選出した。子どもの様子を伝え、夏休みの過ごし方や、親子ふれあいイベントについて話し合った。	39人 (保護者)
	納涼祭出店	納涼祭に親子で「水玉ジュースやさん」を出店した。	54人
8	誕生会	「自分の事クイズ」を行った。	55人
	「手作りランチ」パーティー	みんなで協力し、自分たちの昼食を作った。	延べ 251人
	夏外出	暑さ指数が危険数値だったため、外出は中止とし館内で代替イベント「夏だ！宝だ！！なんで～も海賊団！！」を企画し、宝探しや水鉄砲を用いて水遊びをし、おやつを食べ過ごした。	69人
	交流ランチ	サン・サン赤坂の高齢者と昼食を食べ交流し、高齢者への敬意と親しみを感じるようにした。(3回)	30人
9	誕生会	「連想ゲーム」を行った。	77人
	秋の親子ふれあいイベント	親子でクイズドッチボールや花火やDVD鑑賞を行い、アリーナに宿泊した。保護者との懇親会も行った。	延べ 129人
10	第2回保護者会	学童クラブでの夏休みを含めた児童の様子を紹介し、育成料についての説明を行い、質問・要望について話し合った。	18人 (保護者)
	誕生会	「連想ゲーム」を行った。	77人
	個人面談(2・3年生)	保護者と、児童についての情報を共有した。(宿題の状況やお友達関係について話すことが多かった)	13人
11	誕生会	「インタビュー」を行った。	57人
12	誕生会	「インタビュー」を行った。	57人
	クリーンプロジェクト&年越しパーティー	お昼に天ぷらうどんを食べた。おやつにプリンパフェを作り、アリーナで大運動会を行った。終わりに、クラブルームの大掃除を行った。	57人
	冬外出	「アクアパーク品川」に出かけた。	66人
1	誕生会	「インタビュー」を行い、司会は三年生にお願いした。	55人
2	誕生会	「インタビュー」を行った。	54人
3	誕生会	「インタビュー」を行う。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止
	第3回保護者会&親子ふれあいイベント	会計報告と1年間の子どもの様子を振り返る。また、昼食作りを親子で行う。	
	お別れ遠足	池袋のナンジャタウンに遠足に行く。	
	お祝いパーティー	昼食を食べ、3年生の低学年修了を祝い、第2学童へ送り出す。	

IV 令和元年度の事業を振り返って

1 プラザの運営

令和元年度も、「更に、賑わい溢れるプラザを目指す」ことを事業運営の基本に据え、運営を行なった。

「賑わい」の判断にあたり、具体的な指標となるものが、来館・利用者数である。

来館者数に関しては、平成30年度にアリーナが9月21日から平成31年2月18日まで、特定天井等改修工事のため約5カ月間使用できなかったことに因る利用者数の大幅減（対前年度比19.8%減）があったことから、前々年度（平成29年度）実績を基準とし、+2%を館の目標に設定し、職員に周知した。

なお、令和元年度に入り、令和2年1月以降、「新型コロナウイルス」に因る感染拡大が始まり、2月後半以降、利用者数減の影響が出始めた。3月2日以降は、区立小中学校をはじめ、都立や私立学校・インターナショナルスクール等がほぼ一斉に臨時休業に入ったことから、港区の方針にしたがい、プラザ（児童館部門）の一般利用が中止となった。こうした異例の事態に立ち至ったことから、利用者数の単純な年度比較が不可能となった。

このことから、「新型コロナウイルス」の影響がなかった平成31年4月から令和2年1月の間（10カ月）の利用者の推移で比較する。

3か年（10カ月分）のプラザの利用延人数の推移

(参考) 3か年のプラザの利用延人数の推移

年度	29	30	元
利用延人数	55,511	51,398	48,188
増減率	△4.7	△7.4	△6.2

年度	29	30	元
利用延人数	66,096	60,950	52,490
増減率	△5.3	△7.8	△13.9

令和元年度（10カ月分）の利用延人数の対前年度比の内訳は、小学生（112.0%）が増加したものの、保護者（97.0%）、高校生（82.5%）幼児（81.2%）の来館者数が減少し、中学生（66.3%）は、30ポイント以上の大幅減となった。

この要因としては、

- (1) 令和元年度は、天皇ご即位に伴う休日が増加したこと等から、10カ月間の休日数（休館日数）が、対前年度比で6日多かったこと。
- (2) 前年度、アリーナ工事による減があったにも関わらず、その影響を脱し切れていないこと。特に、乳幼児、中・高学生については、その傾向が続いている。
- (3) プラザでは、多彩なプログラムを用意し、飽きのこない事業運営を行ってきた。しかし、アリーナ工事に伴う利用者減の影響は長引いており、工事実施前の水準の戻すには、なお暫く時間を要するものと思われる。
- (4) こういった中、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により児童館部門の一般利用中止が行われており、これが長引けば、これに伴う減の影響が更に大きくなる懸念される。

令和元年度は、**新規企画**として、

- ① **年齢層横断層対象企画**では、「新年カラオケ大会」、「障害物競争」を実施した。
- ② **乳幼児対象企画**では、「プラタイム」、「はいはいレース」、「ベビーサイン」を実施した。また、**乳幼児・保護者対象企画**では、「保護者・妊産婦ヨガ」、「はぴママ親子ヨガ」、**乳幼児・小学生対象企画**として、「ポルダリング」、「オマチマン・ツマチマンコンサート」、「キッズ・マネースクール」を実施した。
- ③ **小学生対象企画**では、クラフト系の「トリック・アート」、「ゴースト・ピクチャー」ほ

か2件、音楽系の「楽器で遊ぼう」「Wiiカラオケ」ほか1件、運動系の「ブラインドサッカー体験」「ビリヤードタイム」ほか5件、ゲーム系の「マンカラ大会」ほか3件、TVゲーム系の「スマ（スマッシュブラザーズ）タイム」ほか1件、「カフェりんたろう（サン・サン赤坂の地域貢献活動）」系の「ダンス発表会」ほか1件、食育系の「おやつ研Q会」など、多彩な企画を実施した。

- ④ 中高生対象企画では、「プラカラ（プラザ・カラオケ）」、「ボイスレッスン」、「TLP（ティーンエイジャーズ・ランチ・パーティー）」ほか2件を実施した。

令和元年度は、中高生を重点対象として、事業展開してきたが、令和2年度は、小学生をメインターゲットに据え、新たな事業展開を図っていくこととしている。

2 学童クラブの運営

令和元年度も、児童・保護者とも信頼関係を築き、安全・安心に過ごせる児童の居場所づくりという基本を重視し、円滑な運営を目標とした。

令和元年度は、前年度と同様、児童定員120人で運営した。これに対し、年度当初の入会者は、103名（1年生：33名、2年生：23名、3年生：18名、4年生：16名、5年生：10名、6年生：3名）、途中入会：12名、途中退会20名で、年度末在籍者95名（最大在籍児童数は107名）であった。近隣の赤坂小学校以外の学校（インターナショナル・スクールや国・私立小学校など）に通う児童が多く、あわせて22名の在籍があったが、こては、他のクラブと比較しても多い人数と言える。

そのため各学校の休校日等の予定にあわせ、職員体制を細かく調整・配慮した。

学童の一大イベントといえる保護者主催の「親子ふれあいイベント」でも、保護者会での話し合いで、日程と大枠を決定し、実行委員のみなさんが前例にとられることなく工夫し、無事に開催することができた。「親子ふれあいイベントを実施できてよかった」、「親子で参加したが、良い思い出ができた。」との声が多く聞かれた。令和元年度も、保護者との関係性は概ね良好に運営できたと捉えている。

なお、3月に予定していた「親子ふれあいイベント」は、「新型コロナ」の影響により中止した。

運営面では、児童の安全・安心な児童の居場所として、年間を通じて円滑・順調に運営することができた。

今後も保護者と連携しながら、児童にとって心地よく安心できる居場所であるよう努めていきたい。

3. 事業・企画の運営体制

令和元年度も、「対象児童の年齢層別」の職員グループ制（職員が、プラザの「キッズ（＝乳幼児）」、「小学生」、「中高生」担当、それに「学童クラブ」のいずれかのグループに属する）を維持した。また「学童クラブ」を除き、担当者が各グループの日常活動に参加する「相互乗り入れ」方式を維持し、定着している。その結果、殆どの職員が児童館業務のどの年齢層にも抵抗感や苦手意識を持たずに対応できるようになっている。

4 館内外で発生した事故

令和元年度の怪我に起因する事故は、「児童館内での身体的な事故」が5件発生したが、館外

での同種事故の発生はなかった。「身体的な事故」は、前年度（7件）より2件少なかった。

「館内の身体的事故」のうち、骨折に至るような大けがの事故は発生しなかった。

館内発生事故は、アリーナでのスポーツ中の打撲、切創といった軽傷事故が2件あり、うち1件は小学生同士のドッジボール中の衝突による切創等、もう1件は、幼児がアスレチック活動中に顔面を床に打ち付けた打撲であった。

一方、利用者の対象別では、幼児の事故が4件と、例年に比べ多く発生した。うち、自由遊び中の事故が3件発生したが、場所別では、キッズルームでの打撲事故が2件、中庭での裂傷事故が1件であった。

切創は、縫うほどのものは、なかった。

受傷者・保護者へは、保険や区の見舞金制度について説明しご案内するなど、適切に対応したこともあり、苦情は生じなかった。

いずれも咄嗟の出来事で、職員がその場に居ても防ぎきれなかった。

発生後は、保護者同伴中の幼児の事故を除き、職員がすぐ保護者に電話連絡等して経緯説明と謝罪をし、当該児童を近隣の医院に連れて行き付き添うなどしたうえで、保護者に引き渡した。

これらの事故に対しては、総合支所とも連携をとり、保護者に対し事故当時の状況や館としての対応、保険等について丁寧に説明するなどの対応を行ったことにより、苦情には至らなかった。また、利用者と職員との日頃の良好な信頼関係がベースにあることも、苦情には至らなかった要因と考えられる。

今後は、引き続き児童に対する見守りを更に強化し、可能な限り事故防止に努めるとともに、事故の未然防止に向け必要な対策を講じるなど、より一層安全・安心に過ごせるプラザを目指していきたい。

このほか、児童による金品の亡失事故が1件あった。これは、来館していた中学生が、当館のルールに従って定期券等を貴重品としてフロントに預けたり、鍵付きロッカーの鍵を借りて利用したりせず、リュックに入れたまま扉のない児童用のロッカーに収納していたところ、亡くなったものであり、捜索しても見つからず、児童が紛失届を警察署に提出しもの見つからなかったものである。

今後は、事故の未然防止に向け必要な対策を講じるなど、より一層安全・安心に過ごせるプラザを目指していきたい。